

慢性膵炎に対する Frey 手術

はやし 林 ひこ 彦 た 多 かわ 川 ばた 畑 やす やす なり 成
 た 田 しま 島 よし 義 つぐ 証

キーワード：慢性膵炎，Frey 手術，地域医療

要 旨

慢性膵炎に対する Frey 手術は、主膵管の解放と膵頭部の芯抜きによる必要最小量の膵実質切除を組み合わせ、Wirsung 管のみならず Santorini 管と膵鉤部分枝膵管の解放を実現する膵管減圧手術で、特に "head-dominant" な石灰化を有する症例がよい適応となる。外科手術は、膵内外分泌機能を保持するうえで体外衝撃波結石破碎治療より高いエビデンスが示されており、慢性膵炎治療の選択肢のひとつとして常に念頭におく必要がある。当科で施行した Frey 手術 3 例はいずれも術後経過は良好で、膵機能も保持できている。慢性膵炎の治療には、内科、外科のみならず、診療内科、麻酔科等を含めた長期的な診療連携が要求される。従って、診療を担当する各施設が各々の役割を明確化し、慢性膵炎が "surgical disease" の側面を有することを認識しつつ、緊密な医療連携をもって取り組む必要性がある。

はじめに

慢性膵炎は膵臓に繰り返し炎症が起こることにより膵の実質細胞が破壊され、実質の脱落、炎症細胞浸潤、不規則な線維化、肉芽組織へと変化し、最終的に膵が萎縮し、膵内外分泌機能の非可逆的な低下をきたす病態である¹⁾。最も頻度が高いのはアルコール性慢性膵炎であるが、他に自己免疫性膵炎など種々の成因がある。放置すれば、代償

期、移行期を経て非代償期へ病期が進行し、やがて膵機能廃絶に至る。従って、慢性膵炎の長期治療戦略では『いかに膵内外分泌機能低下を防ぐか』が重要であり、患者の quality of life (QOL) を左右する大きな課題となる。個々の症例の病態を的確に把握し、内科的治療で対応が困難と判断された場合には膵機能が廃絶する前に外科手術を選択すべきで、慢性膵炎は "surgical disease" であるという側面を認識しておく必要がある^{2,3)}。すなわち、慢性膵炎はかかりつけ医と各診療科の緊密な連携により包括的に取り組むべき疾患であると言える。Frey 手術は1987年に Frey らにより報